

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 25 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	中村合名会社		
事業所名	グループホームつきとほし		
所在地	諫早市福田町2番22号		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町受理日	平成27年3月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

開設し、12年目を迎えようとしています。その中で、これまでの介護では不十分なところが、共に暮らす中で見えてくるものがありました。利用者、それぞれの今までの生活を考えながら、この人の為に良いと思っていた事がそうではなかったり、利用者が職員に遠慮しながら声をかけていたり、振り返れば、このような事もあったと思います。その人らしく生活を送ってもらいたい想いは今までも持ち続けてきましたが、もっともっと、その人の事を知り、情報を得る為の関わりを持つ事、信頼関係を築く事、利用者が職員に遠慮なく話かける事ができる職場を目指します。又、職員自身も自分を振り返り、心に余裕を持つ事も必要と思います。その人らしさを失わない生活が続けられるように一日一日を大切に笑顔を忘れないで過ごしていきます。

また、以前に比べると行事や外出の機会が少なくなっていますが、クリスマス会では、多くの家族の方も参加され、利用者と共に楽しんで頂いています。今後は家族の方や地域の方との交流にも取り組みたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市街地に属し近隣にスーパーがあり、散歩へ出掛けると地域の方との交流を持つことができる住みやすい環境にある。職員は女性スタッフ中心であることから笑顔で活気があり、家庭的な明るい雰囲気が感じられる。利用者は、利用者同士、名前で呼び合い関係性も良好で、食事の時間は会話を楽しみ、よく笑い声がきかれた。職員は利用者にも笑顔で過ごして頂きたいとの思いがあり、今年度は特に日々の気付きや表情で利用者の思いを汲み取り、一人ひとりの理解に努め支援されることに力を入れ取り組まれた。コミュニケーションの中から、職員はさり気ない言葉掛けの工夫、寄り添うことで、病院より退院され無気力だった方が、生活の中で他の利用者からも刺激を受け、表情が輝くように明るくなり、その方らしく生活のリズムを取り戻せた事例もあった。課題を真摯に受け止め、今後、楽しみや本音を引き出せるように、日常のコミュニケーションを大切に過ごしていきたいと話される職員の言葉から、今後ますます発展の期待が持てる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋げている	「明るい笑顔でほのぼのと、ありのままのあなたと私で過ごしましょう」を基本理念とし、住み慣れた地域の中で、その人らしく生活できるよう取り組んでいる。	笑顔を大切に、職員も明るく笑顔があふれている。利用者の様子を記録、報告し合い職員間で共有し、利用者を知り沢山の笑顔が見られるよう、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験の受け入れは積極的に行っている。運営推進会議のメンバーから、地域御璽等の情報は得ているが、充分に参加ができていないとは言えない。	踊り、大正琴等、個人や同好会の方の慰問がよく来られている。買い物へは、毎日近くのスーパーへ徒歩で行かれ顔なじみになり、地域を散歩する時にも、花を頂くなど交流をもたれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席されている方々には理解してもらえるよう取り組んでいるが、まだ不十分である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は打ち解けた雰囲気、支援に繋がる意見や情報を引き出せるように努めている。会議録は、スタッフ全員が共有し、サービスに活かされるよう努めている。	市職員、民生委員、近隣住民、家族代表の参加があり、事業所での活動内容の質問や、他施設長より助言、家族からの質問、要望等、意見交換がなされている。他職種や社会資源の繋がりを深めるために医師、薬剤師、警察等の参加を要請し、今後は参加して頂ける予定である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護保険の申請等に相談や情報交換をするなど、連携を深めている。	運営推進会議への参加もあり、地域の高齢者の情報や、他の事業所の事例等情報交換がなされ、入居者が安心して生活が継続できるように関係機関と共に福祉制度の活用や相談など協力関係を築かれている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為に、必要最低限のベッド柵の使用にあたっては、スタッフ会議で検討したうえで、家族の理解と了承を得ている。	興奮や不穏、徘徊がある入居者へは表情の観察や見守り等の支援で、小さなところから変化を見逃さないように気配りし、行動を抑えないよう対応されている。玄関自動ドアによる施錠、ユニット入口には、センサーを設置し不審者対策や離設による事故防止対策が講じられていた。	現在安全確保のために玄関自動ドアの施錠と、ユニット入口にセンサーの使用があり閉塞感や閉鎖的な印象が感じられる。生活の場においてセンサー音や施錠する事が過干渉となっていないか入居者へ与える影響を再度振り返り、少しずつ施錠を行わない時間を作るなど、施錠せずとも徘徊を防ぐ方法等を模索し開放的な事業所作りを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や、現場の中で対応方法について検討し、防止に努めている。日々のケアの中での声掛けには注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議等の機会が少ない為、全職員が寿吉しているとは言えない。勉強会を行い、支援できる体制作りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	対応可能な範囲についての説明も含め、家族の不安がないよう十分な説明を行い、納得された上での契約となっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には意見や要望等、気楽に話して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。その都度、職員への周知の徹底を行い、日々のケアに対応できるよう努めている。	面会時に利用者の状況報告、遠方の家族には、電話連絡で家族の思いに添い関わりを持つようにしている。家族からの要望等は、申し送りノートにて、職員間で共有するようにしている。	家族の面会時には訪室し挨拶を行う等関わりを持つようにされているが、定期的なアンケートの実施を行うことで家族の言いずらい意見を汲み取れると思われれます。入居者及び家族の要望を柔らかな傾聴の姿勢で更に汲み取り、今後支援に活かされることを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や要望を聞くように心掛け、スタッフ会議に於いても、意見交換を行い、対応できるよう努めている。	スタッフ会議、申し送り等、日頃からの会話の中から、小さな気付きも言い合える関係性を築いてお互いに助け合っている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員とは、役割や担当を決めて、責任を持って取り組んでもらっている。現職員体制の中では、勤務状態が万全ではない。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会や講習会には参加できるように努めている。研修会などの資料は全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。同業者との意見交換は有意義なものであり、ケア向上に活かしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、家族や担当者から十分な情報を提供してもらい、全職員が把握するよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、見学に来て頂き意見や要望等を聞ける話し合いの場を設け、安心して利用できるよう取り組んでいる。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族の意見や要望を確認し改善に向けての話し合いを行っている。安心して、他のサービス機関の紹介を行う等の対応をしている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の援助を通し、日々、本人が快適に過ごせるように、職員は温かみのある言葉かけ等を心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事ごとに家族と職員とが、より良い関係を築けるようにお話しする機会を設けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	遠方の家族・友人には写真やハガキを送ったり、電話をし、これまでの関係を保てるよう心掛けている。	家族や友人の訪問がよくあり、デイサービスを利用しているご主人が週2回面会に来られたり、書道の先生をしていた利用者へ、生徒だった方が面会に来られる。以前住んでいた場所へ出かけ、懐かしさに触れる等支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士でトラブルがおきないように、一人ひとりを理解し間に入り、上手く関わり合えるように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後、面会に行くこともあるが、一部の方にしか過ぎず、頻回ではない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の表情・仕草・言動などで、本人の希望や思いを把握できるように取り組んでいる。又、話やすい雰囲気作りに努めている。	日常会話や表情の中から、本人の希望、要望を汲み取り、フェイスシートや日々の介護記録に言葉や反応を記すことでその方の思いやその人らしさを把握できるよう努めている。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時の本人や家族、関係者から、それまでの生活歴等の情報をできるだけ詳しく得ており、日々のケアに繋げるよう努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の生活の中で、精神面や健康面に気を配っている。変化があった時は介護記録や申し送りノートに詳しく記録している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から要望や意見を聞き、今後のケアやより良い生活が送って頂けるよう、月1回開催されるスタッフ会議の中で、スタッフ全員で意見を出し合いながら、モニタリングを行い、介護計画を立てている。</p>	<p>スタッフ会議で話し合いプランの作成、1か月ごとにモニタリングの実施を行っている。遠方の家族には、事業所だよりを送付し、活動内容等報告されている。家族との話し合いの場を持ってないと苦慮されることもあるが病院受診時等、会話から探り聞き取りを行っている。プラン変更は、家族に説明を行っているが上手く伝わっていないこともある。家族へのプランの伝達の仕方の工夫をお願いします。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>状態の変化や生活の状態は、毎日の個別の介護記録や気づきノートに記録し、毎朝、職員全員が確認を行っている。記録等を元に、スタッフ会議での意見交換に活用し介護計画に活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、通院は家族にお願いしているが、その時の状況により、付き添ったり、往診で対応しており、安心して頂けるよう取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方に協力して頂き交流の場を設けている。地域の方との繋がりを深める為、今後、運営推進会議では、地域の医師・警察・薬剤師等、様々な職種の方に参加して頂く。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・外科・精神科等、かかりつけの病院があり、基本的には、家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行している。受診・往診の結果は、その都度、家族に連絡している。</p>	<p>利用者の希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て、受診されている。状況に応じ職員が付きそう場合もある。精神科への受診は、状況を細かく説明し家族の了承を得て、受診を勧め、精神状態の安定に繋げられるよう支援されている。家族と受診後の状態報告は、電話で情報交換をされている。かかりつけ医との連携もされており、発熱時等も連絡、報告し協力関係が築かれている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師がいない為、状態の変化がみられた時には主治医に連絡・報告し指示を仰いでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。職員が見舞いに行くなどし、家族とも回復状況を情報交換しながら早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族と話し合う場を持ち、今後、本人にとってどうする事が一番いいかを考え、家族の支えになるように努めている。重度化した場合、事業所ではどこまでの支援ができるか書面や口頭で説明を行い理解を得ている。</p>	<p>全職員は、医療的な勉強会に参加し、緊急時に備え対応できるように努めている。かかりつけ医と連携し、できる限りの支援が出来るよう取り組まれている。在宅酸素使用されている利用者がおられ体調管理などの相談に応じている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>一人ひとりに対応する急変時のマニュアルを作成しており、緊急連絡のマニュアルも目に付く所に貼り、日頃より意識するよう努めている。すべての職員は応急手当での研修会に参加している。</p>		



35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での呼びかけによる地域との協力体制はできている。消防署立ち合いの避難訓練は実施したが、事業所での定期的な訓練は実施できていない。	避難訓練の際には避難誘導の手順や避難経路の確認を行っており、前回の目標達成計画として入居者情報の持ち出しファイルの整備や備蓄品の確保に取り組んだ。現在地域住民との交流はあるが、有事の際における協力要請が希薄となっているため、今後は地域消防団への声かけや合同訓練の実施に繋がりたいとされている。	現在年1回の訓練では手順や誘導方法の確認のみとなっており、訓練記録や実施の振り返りがなく職員への周知が不十分な状況であった。また、一部の入居者との訓練となっているため実際に入居者と共に避難経路を移動するなど困難部分の検証を行う必要があると考える。2階、3階部分の居室となっているため再度避難方法を早急に検討し、確実な定期訓練の実施と、今後の有事の際における迅速な行動に繋がるよう促します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応を心掛けている。居室に入る時は、ノックをしている。トイレ時等は本人や周囲に配慮した心配りをしている。	常に相手を気遣い、傷つけないような言葉掛けに気を付け、利用者の日課を把握し、その人らしく生活して頂けるよう支援している。職員間での対応を見て、学び合う姿勢でお互いに振り返り、都度言葉掛けをし、利用者を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい声かけで対応し、本人が意思表示を出来るように、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせ、できる事をしてもらっている。本人の希望することに、少しでも近づけるよう個別の対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年3~4回美容師に来てもらい散髪を行っている。家族と美容室へ行く方もおられる。朝の更衣時は、本人が好みの服を選んで着用している。介助が必要な人は入居者と洋服を選び着用している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等を行ってもらい、同じテーブルで食事をしている。行事時のメニューは、入居者と相談し決めている。	各ユニットごとに献立を作成し、利用者と共に準備、片付けをされている。旬の食材を取り入れ、見た目、彩りに気配りされ、リクエストにも対応し喜んで頂いている。おやつに、おはぎやたこ焼きを手作りしながら食べる事も楽しまれている。職員も一緒に食事をし、会話を楽しみながら、穏やかな時間が流れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量を提供している。夜間はトイレ後等に水分補給し、ペットボトルに麦茶を入れて居室で飲めるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後や食事後、口腔ケアを行っている。一人で出来ない入居者には、声かけ・誘導し介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、各自の排泄パターンを把握するよう努めている。トイレ誘導時には、本人のプライドを傷つけないように配慮している。	トイレでの排泄を心掛け、残存能力の維持の為、職員はできる事の見極めをし、さり気ない手添えと、言葉掛けで、本人でできるように支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、何日も排便がない入居者には、自然排便に繋がるように、水分を多めに摂取してもらう等の対応を行っている。主治医へ相談し、緩下剤等の内服薬が処方される場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴が好きではない方にも笑顔で入って頂けるよう、好きな湯加減にし、入浴剤を入れたりしている。	週に2~3回の入浴を基本とし、個人の好みに合わせ支援されている。入浴剤を入れると、温泉のようだと喜ばれ、歌をロケさむ利用者もおられる。拒否される利用者には、家族の協力を得て、一緒に介助に入って頂く事もあり、利用者が安心出来る環境作りにも努めている。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	生活リズムに合わせな がら、日中の傾眠を少 なくして夜間良眠でき るように支援してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	一人ひとりの服薬リス ト表を作成し、全員が 把握できるようにし、 投薬時には職員や本人 に声かけ確認チェッ クを行っている。飲み込 み確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる範 囲で、職員と一緒に食 器拭きや食事の盛り付 け、洗濯物たたみ等を して頂いている。週に 1回のレクリエーショ ンや季節の花を生けて もらう等、楽しみを 持った生活が送れるよ うに支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は状況 により十分にできている とは言えないが、四季 折々の季節感を感じて頂 けるように、花見見物 や、芋ほり体験等の行事 で外出の機会を設けてい る。今後も歩行状態の悪 い方も外出の機会が増え るように努力したい。	外出できる利用者と共に、 毎日の買い物へ近隣のスー パーへ出かけられている。 散歩も気候の良い時には、 出かけ季節の花に触れ、地 域の方との交流もある。受 診の帰りに、利用者の自宅 を眺めたり、夏みかん、桜 等見物をして、とても喜ば れている。時には、家族の 協力を得て、外食や外泊の 支援もなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとり の希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	殆どの方がホームで管理 している。本人がお金を 持っていたいと思われる 時は、家族の了承を得た うえで、所持してもらっ ている。おやつ・ノー ト・ペン・化粧品等の買 い物は本人の希望に添え るように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話 をしたり、手紙のやり取りができる ように支援をしている	年賀状・暑中見舞いは 自筆で一言添えて書い てもらっている。遠方 の家族から、ハガキや 荷物が届いた時には電 話をかけ、本人に話し てもらっている。		

52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作成した折り紙等の作品と季節の花をリビングやダイニング等に飾り、季節感を取り入れている。部屋の温度は常に管理しており、居心地良く過ごせるように配慮している。	玄関には桜・こでまり・菜の花が飾られ、利用者家族が作られた季節の花飾りをフロア・廊下の壁に沢山飾られ季節感を感じる事ができ、居室入口には、職員手作りの名前プレートがあり、温かみを感じられる。水回りの洗剤等は安全性を考慮し、別場所へ保管されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはソファを置き、ゆったりとくつろげるようにしている。リビングでは同じテーブルで気の合った利用者同士で談話できるように椅子の配置にも工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、好みの品・家族の写真等を飾り、自分らしい部屋作りをしている。	エアコン・クローゼット・ベッドが備え付けられ、馴染みの物を持参して頂くよう家族へ提案している。テレビは、必要に応じて持ち込みされている。机に写真や思い出の品があり、壁にも季節の花飾り等かざられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所など解りやすいように大きく表示している。ベッド柵や夜間のポータブルトイレの設置等、その方に合わせ、自立した生活が送れるよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

## 1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町の中で、優しい人達を自分のペースで、元気に人生を楽しもうと、心掛けている。地域の方との交流も十分じゃないが、その人の心の中にある地域を見つけていく事も大切だと思う。今の場所が自分の故郷と感じてもらえる様な環境を作っていきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問等で、保育園・学校から来て下さり、交流を楽しまれている。近くのスーパーに買い物に行ったり、散歩をしていると近所の方から草花を頂いたりしている。町内会にも加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会やグループホーム連絡協議等に参加し理解を深めている。又、実習生の受け入れも行っている。地域の方々に関しては、まだまだ不十分だと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までは、議題を決めて行っていたが、最近では自由に発言できる場を設ける事で、それぞれのホームでの悩み、良かった事なども聞く事ができ、家族の方からも沢山の意見を出して頂き参考になっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時等に、当ホームの現状を伝えていく。市町担当者からアドバイスを受ける事もある。利用者によっては、保護課等に相談をすることも多く、協力関係を築いている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日々の生活の中で、「拘束とは？」を考えながら、支援している。玄関にはセンサー、自動ドアも自由には開放できないが、事故につながらない為の設計となっている。「家に帰りたい」と落ち着かない方には、一緒に中庭まで行ったりと、気分転換を図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議の中で、虐待とはの意見を話合っている。日々の生活の中でも、言葉遣い等、お互いに注意を払い防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等を行う事が少ないが、成年後見人制度について、利用者の方に必要か協議したことがある。今後は、研修会を開催し、学ぶ機会を作りたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を2部作成し、一部は家族に保管して頂いている。契約書を見ながら、利用料金・事務所の対応可能な範囲・緊急時の対応等、納得が得られるような説明に努めている。又、解りやすいように、印刷物を用意し渡している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見・要望・苦情に関しては、前向きに受け止め、その都度対応している。又、家族の立場に立った説明を心がけている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの、意見・要望・提案は日常の勤務の中で、聞く事ができている。改善すべき所は、全員で話し合い、良い方向に向かうよう取り組んでいる。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の健康診断を実施している。休憩室はあるが、勤務中に休憩する時間は取れていない。労働時間超過の消化ができていない。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会・講習会を受講できるように心掛けている。受講したものは資料などを整理し、いつでも閲覧できるようにし、意識の向上に繋げている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>毎月定例で実施されるグループホーム連絡協議会に出席し、他のグループホームとの交流・意見交換等を通じて、質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に家族からこれまでの生活歴を詳細に尋ね、本人からも心配事がないか等を聞き、本人がおかれている状態を理解し信頼関係が早く築けるように、努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの家族の苦勞等、しっかりと受け止めながらこれからどのような生活を送ってほしいのかを尋ね、家族の想いを理解するように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の想いを受け入れ、直ぐに実行できる事と、話し合いを設けなければならない事も含め、柔軟な対応を行うように努めている。</p>		



18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に合った分野を職員と共に行っている。生活の知恵や風習や尊敬の気持ちを伝えて、本人に自信と喜びを感じて頂く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、常に本人の近況報告を行い、電話の場合でも安心して頂けるように、本人と会話をして頂く事もある、職員と家族とのより良い信頼関係が築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている	親類や友人・知人等、訪問され毎回、居室で楽しく会話し過ごされている。同施設内のデイサービスの年間行事にも参加され楽しまれている。又、継続して馴染みの美容室に出かけたり、来て頂いたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は日常生活の中で個々の特徴を職員全員が把握し、穏やかな雰囲気作りに努めている。場合によっては、利用者の仲介に入り、円滑に過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人を、家族が連れて訪問されている。利用中の思い出話をしたり、新しい転居先での不安等を傾聴するなどして、良い関係が築けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中の会話等で、表情・仕草・言動等で、本人の希望や想いを把握できるように取り組んでいる。又、話やすい雰囲気作りに努めている。		

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族、関係者から、それまでの生活歴等の情報を、できるだけ詳しく得ており、日々のケアに繋げるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、精神面や健康面等の状態の変化等に気を配っている。変化があったときには、介護記録や申し送りノートに詳しく記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から、要望や意見を聞き、今後のケアや、より良い生活を送って頂けるよう、月1回開催されるスタッフ会議の中で、スタッフ全員で意見を出し合いながら、モニタリングを行い、介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にある介護記録や申し送りノートに、日々の様子や状態の変化等を記録している。毎朝、職員全員が確認し、情報の共有に努めており、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約時に、通院は家族にお願いしているが、その時の状況により、付き添ったり往診で対応しており、安心して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容・かかりつけの病院等、出来るだけ入居前の地域との繋がりが維持できるように努めている。地域の方との繋がりを深める為、今後、運営推進会議では、地域の医師・警察・薬剤師等、様々な職種の方に参加して頂く。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。又、受診に関しては家族にお願いしており、不可能な時は職員が代行するようにしている。最近往診での診察が増えており、往診時に立ち合う家族もいる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理・状態の変化に早く対応できるように毎朝バイタルチェックを行い、ケア日誌に記入している。看護師がいない為、状態に変化があった場合は主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供書を医療機関に提供し、入院によるダメージを少しでも防ぐ為、職員がお見舞いに行き本人と会話をして、安心して頂けるように配慮している。ホームでの対応可能段階で早期退院ができるように医療機関と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所が対応できる重度化についての説明を行っている。事業所としてはターミナルケアは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成し、周知徹底は図っている。スタッフ会議で資料を配布し、話し合いを設けているが、定期的な訓練は実施していない為、必要な時に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実施できていない。マニュアルは作成しているが、実際に起きた時、対応する事ができるかの不安もある。今後、しっかりと実施していきたい。非常食・飲料水の準備も整えたい。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の生活の中で、強い言葉遣いにならないように注意し、利用者の心を傷つけないように努めている。排泄時には、排泄チェック表を確認し、利用者の側で声掛けをするようにしてる。失禁されている場合、他の人に気づかれないような配慮を心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を作り、話し合う時間を多くする事で、本人の思いや希望を表現できるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中、バイタル測定・ストレッチ・レクを行っている時、特にバイタル測定時には、側で声掛けをする事ができる為、本人の気持ちを大切に、少しでも近づけるようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、本人の好みに任せているが、季節と異なる時は自尊心を傷つけないようなアドバイスを行う。美容室からの送迎を利用し、カラー・カットも本人の希望で決定している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下拵え（もやしの根切り・キノコ裂き等）職員と一緒にやる。季節の食材も取り入れ、味・香りを楽しんで頂いている。ランチョンマット拭き等、お手伝いをしてくれる方に対しては見守りを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて、柔らかいご飯や刻み食等を提供している。食べられない時は栄養面を考えほかの物で補っている。水分補給は、レクの後に提供し、自力で飲水可能な方には、自由に飲めるように容器を設置している。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて、見守ったり、介助を行っている。義歯の方は歯茎に異状がないか確認し状況によっては歯科受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入、一人ひとりに合わせ、トイレ誘導を行っている。失敗されても本人が傷つかないように、周囲に気づかれないように、心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給にも心掛けている。適度な運動を行ったり、排便が困難な時は、主治医に相談し指示のもとで、下剤（内服薬）でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	業務体制にもよるが、午前・午後の入浴嫌いな方には、タイミングを大切にしている。入浴剤・色・香りを楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で、夜間良眠ができるよう一人ひとりに合った、お手伝いをお願いしている。レク・ストレッチ体操を毎日行っている。寝付けない時は飲み物を提供し安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、薬ケースを用意し、名前を記入している。飲み込まれるまで、側につき、服用している。初めて処方された薬については、変化などがあつた場合Dr.に報告している。各自の処方箋をスタッフが見やすいところに貼っている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの得意な事を把握しできる事を無理なく手伝って頂き見守っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>四季折々の外出は年間を通じ計画を立て、なるべく全員で出かけ、季節を肌で感じて頂けるよう取り組んでいる。一人ひとりの希望があれば、近所への散歩・買い物・本人の住み慣れた家まで出かけたりと支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆ど、ホームの方で管理しており、本人の希望がある時は、職員が買ってきたり、本人同行で買い物に行ったりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望がある方には、年賀状を書き、出される方もあるが、殆どは、家族や知人の面会が多く顔を覗かれて安心して頂くように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>車イス、押し車、足元不安定の方々が多くなり、他の方への迷惑にならないような座席の配置や、トイレ・居室への便利の良さ等考え、ゆっくりくつろげる場になるよう心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にはソファやテレビが有り、入居者同士がくつろげるように設けており、おしゃべりして楽しまれている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた思い出の品（家具・アルバム・鏡）等、持ち込んで頂き、本人が安心して生活できるように家族と相談しながら居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には、ネームプレートを下げ、トイレ・洗面所にも大きく記入した紙を貼っている。押し車・車イスの利用者もおり、席の配置・物の置き場所も配慮している。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの	4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある	4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと	4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない